

【全体】

Q1：上期業績見通しの中で新型コロナウイルス影響を最も受ける事業はどこか？

A1：新型コロナウイルスの影響を最も受けるのはガラスセグメント。売上高の見通しを6,500億円に、営業利益見通しを250億円に下方修正している大半の要因がガラスセグメントとなっている。欧米で自動車メーカー向けの出荷が止まっており、この影響が大きい。電子セグメントはかなり健闘しているものの、ガラスセグメントの赤字をカバーできない。

Q2：新型コロナウイルスの影響は、上期営業利益見通しにどの程度織り込んでいるのか？

A2：上期営業利益での影響は算出していないが、概ね▲350億円程度あるのではないかと想定している。
1Q営業利益は新型コロナウイルスの影響がなければ260億円程度だった。上期営業利益は当初予想を上回り、600億円となってもおかしくなかった。

Q3：設備投資、減価償却費が未定になっているが、設備投資は減価償却費の範囲内まで減額していくのか？

A3：大型投資案件は急にブレーキを踏めないのが、設備投資額を大幅に引き下げることは難しい。
成長事業以外の投資案件の見直しを行う予定。

Q4：戦略事業の業績見通しを下けているが、ライフサイエンスの新型コロナウイルス向けのワクチンなどの製造受託も織り込んだ数字なのか？

A4：織り込んでいる。

Q5：株主還元に関する考え方を教えて欲しい。

従来は総還元性向50%以上だが、今後は手元流動性を重視するという考え方なのか？

A5：年間の業績見通しを未定としたので現時点では回答が難しい。ただ、株主還元の方針は変えていない。
業績が見通せる状況になったときにお話しさせていただきたい。

ガラス

Q6：今年2月にROCEが低い事業として建築用ガラス・自動車用ガラス・ディスプレイ用ガラスを掲げていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を契機に、ガラスセグメントの構造改善を加速させていくのか？

A6：今年の2月にサブセグメントのROCEを開示し、建築用ガラスと自動車用ガラスのROCE改善が大きな経営課題の一つと申し上げた。具体的な計画について現時点で申し上げられないが、新型コロナウイルスの影響が長期化する可能性がある

中、構造改革を加速させる必要があると考えている。

Q7：ガラスセグメントをどのような形で黒字化していくのか？

A7：自動車用ガラスは自動車生産台数が全世界的に大きく落ち込むという異常事態にあり、この状況から急回復することは考えづらい。自動車用ガラス事業の回復は時間がかかる前提で、できるだけ早く手を打っていききたい。
建築用ガラスは特に欧州で新規着工案件が停滞しており、フロート窯のプルダウン、カレット生産といった稼働調整を行っている状況。異常事態ではあるが、徐々に回復するとみている。ただ、欧州の建築用ガラスの価格は非常に低いレベルにある。自動車同様急回復はしない前提で、早めに手を打つ必要がある。機を逃さないようにできることを実行していく。まずはキャッシュマネジメントをしっかりとやる。

Q8：ガラスセグメントの上期の営業利益▲215億円ということだが、建築用ガラスと自動車用ガラスの内訳は？

A8：自動車用ガラスの割合の方が大きい。欧米の4月の稼働はほぼストップしている。自動車用ガラスの年間売上高4,000億円のうち約半分が欧米の売上高なので、その影響は大きい。また、4月下旬から日本でも影響が出ている。

電子

Q9：電子セグメントの営業利益増減要因分析で「コストその他」が+27億円あったが、これはG11新設備のフル稼働が寄与しているのか？

A9：はい。

Q10：液晶パネルメーカーが生産調整をしていると聞くと、2Q以降の液晶ディスプレイ用ガラス事業をどう見ているのか？

A10：液晶ディスプレイ用ガラス基板の2Q出荷は前四半期比で横ばいとなる見通しで大きな影響は出ない。
下期はテレビの需要減少の影響がどう出るか不透明な状況にある。ただ、AGCのお客様構成も過去と比較してかなり変化しているので、大きな不安はない。

Q11：G11の第2ラインの稼働は予定通りの進捗か？

A11：概ね計画通りである。

Q12：液晶ディスプレイ用ガラス基板の価格もマイルドな下落が続くということで良いか？

A12：その理解でよい。

Q13：先週、韓国の液晶ディスプレイ用ガラス基板製造業で素地漏れがあったが業績への影響はないのか？出荷に影響はあるのか？

A13 : 大きな事故というわけではないので業績や出荷への影響はほとんどない。

Q14 : EUV 露光用マスク blanks の出荷は YoY でどれくらい増えたのか？

A14 : YoY で倍増している。

化学品

Q15 : 化学品セグメントの見通しについて、PVC の市況は下がっているがその原料であるエチレンも下がっているのに、クロールアルカリ事業は収益性を維持できる、との認識でよいか？

A15 : PVC はエチレン安によりそれなりのスプレッドは確保できている。現時点ではインド向けの出荷が減っているが、今後インドが回復していく見通しなので化学品全体としては大きな心配はしていない。クロールアルカリ事業は現状維持もしくは若干弱含みでとらえているが、フッ素・スペシャリティ、ライフサイエンスが伸びる見通しなので十分カバーできるだろう。

Q16 : 化学品セグメントの 2Q 売上高見通しは 1Q 比で減収となるが、ライフサイエンスは伸びるのか？

A16 : ライフサイエンスは売上高、営業利益ともに拡大基調である。新型コロナウイルスの影響はほとんど考えなくて良い。クロールアルカリ・ウレタンは弱い、ライフサイエンスがそれを補う形となる。

以 上